

2010年1月19日

三菱化学メディエンス株式会社

三菱化学メディエンスのアンチドーピングへの取り組みについて ～アンチドーピングセンターの研究開発力および検査能力の増強～

三菱化学メディエンス株式会社（本社：東京都港区 社長：吉富敏彦 以下「三菱化学メディエンス」）は、中期経営計画に基づき、継続的な投資によりアンチドーピングセンター（東京都板橋区）の研究開発力を一層強化してまいります。これは年々巧妙化する新規ドーピング手法に対して、最新鋭設備の導入等により新たな分析法の開発をもって対応するためです。また、日本でのオリンピック等の大規模競技会が開催される場合への対応なども視野に入れ、検査能力も向上させてまいります。まずは、2011年春までに、最新鋭分析機器20台を増設するとともに研究者の増員も図り、施設面積は現在の3倍となる1000㎡に拡大いたしますのでお知らせいたします。

昨今のスポーツにおけるドーピングは、ヒト成長ホルモン（hGH）、エリスロポエチン（EPO）といった元来人体に存在する物質および関連化合物であるタンパク製剤や、それらのホルモンの分泌を刺激する物質、また遺伝子ドーピングを含めホルモン産生に直接関係する遺伝子の発現を促す物質、さらに分子構造を人工的に修飾させたデザイナードラッグなど、年々その手法は巧妙化しております。これらのドーピングに対応するためには、最先端の科学技術が必要となります。三菱化学メディエンスは、日本で唯一の認定試験所（*1）としての役割と責任を果たすため、こうしたドーピングを検出するための検査法の研究開発を重要視し、アンチドーピングセンターの機能・能力の強化に引き続き取り組んでいく所存です。

三菱化学メディエンスは、化学・医薬をはじめとする基礎から応用開発までを行う三菱ケミカルホールディングスグループの1社として、プロテオミクス、糖鎖工学、遺伝子関連技術などの広範囲な分野の研究をカバーしてきております。これらグループで培った技術・経験のソフトウェアを今般のアンチドーピングセンターの施設増強といったハードウェアと融合させ、ドーピング防止に関する研究領域の拡大と研究内容の深化を図ってまいります。

スポーツにおけるドーピングの防止に関する国際規約が2005年10月の第33回国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）総会において採択され、ドーピング防止活動は世界アンチドーピング機構を中心に実施されております。2006年12月には日本政府も同規約を締結し、我が国においてもドーピング防止活動はさらに重要性を増しています。三菱化学メディエンスは、今回の研究開発体制の強化がドーピング防止活動に大きく寄与することを確信いたします。

三菱化学メディエンスは、1985年に民間企業としては世界で2番目に認定試験所となり、本年で25周年を迎えます。その間、1994年の広島アジア大会での大規模なドーピング違反の検出をはじめとして、1998年の長野冬季オリンピック、2002年FIFAワールドカップ、2007年大阪世界陸上、2009年台湾高雄ワールドゲームズなど、様々なスポーツ競技大会のドーピング検査を行ってまいりました。また、アジアで初めての認定試験所として、アジアの国々に対して様々な形でドーピング検査に関する国際協力も行っております。今後は研究体制の一層の強化を図り、日本のドーピング防止機関である日本アンチドーピング機構（JADA）と相互協力の上、健全なスポーツ競技の実現に貢献してまいります。

（*1） 世界アンチドーピング機構（World Anti Doping Agency）の認定試験所は世界で35機関（2010年1月現在）

アンチドーピングセンター 完成予想図



【 会社概要 】

- 商号 三菱化学メディエンス株式会社
本社 東京都港区芝浦四丁目2番8号
代表者 代表取締役社長 吉富 敏彦
売上高（連結） 852億円（2009年3月期）
社員数（連結） 3070名（2009年11月30日現在）
主な事業内容
- ・ 臨床検査（生化学的検査、血液学的検査、免疫学的検査、微生物学的検査、遺伝子検査、病理学的検査、その他検査）
 - ・ 予防医学関連サービス
 - ・ 体外診断用医薬品、体外診断用機器、試薬等の開発、製造、販売及び輸出入
 - ・ 医薬品開発支援サービス
 - ・ 化学品・医薬品の毒性試験、薬効・薬理試験
 - ・ ヒト細胞による薬効・毒性評価
 - ・ 医薬・農薬・化学品・食品添加物・化粧品等における安全性評価・環境リスク評価サービス
 - ・ 食品衛生検査
 - ・ ドーピング検査

【本件に関するお問い合わせ】

総務部 総務G 広報担当 TEL 03-6722-4010